

## ▷ 編集後記 ◁

今号は2本だてです。

1本は、専修大学において長年にわたって活躍され、2019年3月をもってご退職なされました庄先生にお願いして開催されました「庄先生を囲む会」(2019年1月29日実施)の様を、質疑応答も加えて載せさせていただきました。

庄先生には、専修大学に入ることになったいきさつから、大学・大学院時代の学生時代のご様子、教員となつてからの様々なことなど、専修大学での52年間が垣間見れるお話をさせていただきました。現在の校舎になる前のお話は、本学出身の先生方からよく聞かされてきましたが、その集大成と思うものでした。また、庄先生が学部生の頃は、法学部生の1・2年次は生田へ通っていたことも、初めて知りました。私自身は1年次のみ、生田へ通った世代で、サークルの先輩の先輩(10年くらい上)なども1年間だけの世代だったと記憶しています。現在の神田校舎になる時に大規模な工事があったので、その関係もあって制度が変えられたのだろうか、などと先生のお話を聞きながら、色々と考えをめぐらしておりました。ドイツでの留学のお話、学内での様々なお仕事については、囲む会に参加された先生方も思うところが多かったのではないのでしょうか。質疑応答については、今回、事務局の方で質問された先生方のお名前も入れさせていただきました。学内の様々な場面で、庄先生と先生方がご一緒され、活躍されたことがわかります。入試関係はもちろんです、やはり庄先生と言えば「育友会」でしょう。長年にわたり「育友会」の主任教授として日本各地の支部へ行かれ、先生方ともご一緒されたことと思います。私も一度ご一緒させていただきましたが、庄先生の育友会を通してのご父母を思う気持ち、専修大学を思う気持ちに触れさせていただき、良い思い出となっております。その一端が紙面から伝わるかと思えます。

庄先生には、早くに原稿の直しをしていただきましたのに、遅くなってしまい申し訳ございませんでした。お詫び申し上げます。

もう1本は、家永先生からいただいた原稿です。

実は今回、諸事情により、従来予定しておりました前期中の発行がずれ込み、このままでは次の72号と合冊にしなければならないのだろうか?と思った矢先、「原稿があるんだけど、載せてもらえるかな?」とまさに天の声のようなタイミングでいただいた原稿です。「大学に提出した研究報告書に大幅な加筆をしたもの」とありますが、先生の研究そのものを見せていただけることになり、大変勉強になりました。次号以降にもご用意があるとのこと。2号連続でいただけるとは、何とも有難いことです。色々とお忙し

いとは思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。そして、ピンチを救っていただきまして、有難うございました。

両先生には、ご多忙の中、原稿の確認などお時間をとっていただきましたこと、あらためて御礼申し上げます。庄先生はご退職されたとはいえ、室員につきましてはご継続いただいておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

去年今年とシンポジウムなどを行っておりませんが、その一方で着々と進めていることがあります。40年来、今村法律研究室では、今村先生の残された大部な資料である「今村訴訟記録」の刊行を行っておりますが、その多くは刑事裁判記録です。今村先生が携わった訴訟は刑事事件だけではなく、民事事件も多くなされています。それらの検証も将来的に行えるよう、また今村先生の顕彰をすすめるべく、本年度からは資料の保存・活用を見据えた活動を始めております。次号において、その一端を提示できればと思っております。

[事務局 坂詰智美]

前号『今村法律研究室報』No. 70に誤植がありました。以下、訂正いたします。

	誤	正
P. 29 1行目	平成4(2012)年	平成24(2012)年

---

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8 専修大学今村法律研究室

発行者 内藤光博

電話 (03) 3265-6217(代)

制作・尚学社/〒113-0033 東京都文京区本郷1-25-7 電話 (03) 3818-8784

---